

たんぽぽ通信

Vol. 63 2014年11月10日発行 たんぽぽ薬局 志木店

ご高齢者と漢方

日本の65歳以上のご高齢者は4人に1人の割合となりました。

加齢とともに低下する体力や免疫力を補うために漢方が最近注目を集めており、病院でも処方されることが多くなってきています。では、ご高齢者に漢方がどのように使われているか、一例をご紹介します。



。 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 +

加齢現象でみられる「燥：乾く」

寒くなり乾燥すると、身体に強いかゆみを訴える方が増えます。特に年齢を重ねるとその訴えが多くなります。そのような症状をろうじんせいひ ふそうようしやう老人性皮膚搔痒症ろうじんせいひ ふそうようしやうと言い、漢方では「枯燥(コウ)



と呼びます、原因として皮膚の血流・代謝・水分脂質の不足です。これらが不足することによって、外部の刺激に敏感になり生体反応としてかゆみが出ます。このような症状には、当帰飲子(トケイン)という漢方がよく処方されます。血行障害・乾燥状態を改善する効果があり、老人性皮膚搔痒症にも処方されます。

認知症と抑肝散(ヨクカンサン)

抑肝散は元来「神経症、夜泣き、かんしゃく、不眠症」として使われて来ましたが、最近では、認知症の周辺症状「徘徊・暴行・かんしゃく」などに効果があることで注目を集めています。

認知症は脳内の興奮性神経伝達物質であるグルタミン酸が増えることで症状が現れます。抑肝散はこれを抑える作用があり、更に妄想・幻覚・うつ・不安などの症状にも効果があります。



。 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 +

まとめ

ご高齢者に使われる漢方を見ますと補剤といわれる種類が多いことが分かります。補剤とは足りないものを補い、過剰なものは抑えることで正常なバランスをとることを意味します。

漢方を取り入れることで、加齢と共に現れる症状と上手に付き合いたいとお考えの方は、医師にご相談ください。



。 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 + 。 。 * 。 。 +

たんぽぽ通信からのお知らせ

ご質問、ご意見などございましたらお近くのエムトゥエムの調剤薬局にご相談ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

